



No.024

死んだらな、花の筏に浮かべてや。
よろしうたのんだえ。

四月。桜の季節。

北から南へ、川辺も、城も、山裾も、淡い花びらの雲に包まれる。

日本に生まれてよかったと、一年のうちで最も深く思える季節。

この国には、桜を愛でる名所が無数にある。けれども京都は、やはり特別だ。千三百年の古都を彩る束の間の春に、桜はしめやかに寄り添う。

なかでも、銀閣寺と南禅寺を結ぶ、あの細い小径。

花びらが疏水の水面に揺れ、歩むほどに思索が深まる道——哲学の道。

子どものころ、そのすぐそばに暮らしていた。

桜の季節になると、真夜中にそろりと布団を抜け出し、一人でこっそり夜桜見物へ。

五百本はあろうかというソメイヨシノが、夜風にさわさわと花びらをふるわせる。

水面にぎつしりと降り積もった花びらが、白い帯のように長く伸び、暗闇にほのかに浮かび上がる。

——花筏。はないかだ。

ゆつくり声に出してみる。

この景色をただじっと眺めることが、幼い頃のひそやかな一人遊びだった。

風の強い、ある夜。

いつものように疏水沿いを歩いていると、暗がりの向こうに、ひとつの人影が。

物陰から、そっと様子をうかがう。

続きは、京がたり「花筏」にて。

ひいさま (松根裕美)

京都生まれ、京都育ち。
学生時代は日英を問わず朗読や作文に多く携わる。高校時代、裏千家主催学校茶道体験論文コンテストにて優秀賞受賞、第18回裏千家ハワイセミナーに招待。京都私学ESS連盟主催英語暗唱大会優勝、英語弁論大会優勝。大学時代、世界遺産「下鴨神社」で十二単王朝舞を学び、名月管絃祭で舞を奉納。現在は京がたりの舞台活動に加え、一般社団法人きものカラーコーディネーター協会認定講師として、きもの・色・ことばに関わる各種レッスンやコンサルティングを、名古屋を中心に各地で展開。きものカラーワークやセルフ和髪レッスンなど、地方や海外からも生徒が訪れる人気講座を運営。
Instagram → @hiromimatsune



ひいさま 藤間勘萃 幻燈館

文中で紹介した動画を YouTube でご覧いただけます。
QRコードを読み取っていただくか、「藤間はないかだ」で検索して下さい。

藤間勘萃

1958年に名古屋で生まれて、1977年にデビュー。
日本舞踊家(宗家 藤間流 名執) / 楽師としてNHK「日曜美術館」や「花の舞・花の宴」、養老孟司(東京大学名誉教授)との「以心伝心・以身伝心」、久田舜一郎(小鼓方 大倉流15代宗家)との「秋天の興」など放送や舞台上に数多く携わる。作・編曲家として「世界デザイン博覧会」テーマ館音楽、名古屋芸術祭主催公演テーマ曲、関西二期会オペラ、合唱曲「弥陀観音大勢至」(深井丸 興西寺所蔵)、「おとほぎ」(あいちオカリナ フェスタ テーマ曲)、音楽版「浄土真宗 正信偈草四句目下」(光壽山 阿彌陀寺所蔵)などを手掛ける。名古屋音楽大学音楽学部 作曲学科卒業。日本福祉大学 社会福祉学部を経て、現在、東海学園大学 教育学部にて講師。



ひいさま 藤間勘萃の
ホームページはこちら



